

見えない「におい・かおり」を、 科学で見える化

代表者
かおりデザイン専攻 教授 光田 恵

■概要・設置目的

におい・かおり研究センター（旧・臭気評価・制御研究ラボラトリー／2001年開設）で対象としている「におい」は、目に見えないものの、快適な生活環境を創造するうえで不可欠な要素です。当センターでは、生活環境におけるにおいの課題解決を目的とし、実生活空間を再現した実験設備と、においの測定・分析機器を備えた環境のもとで研究に取り組んでいます。

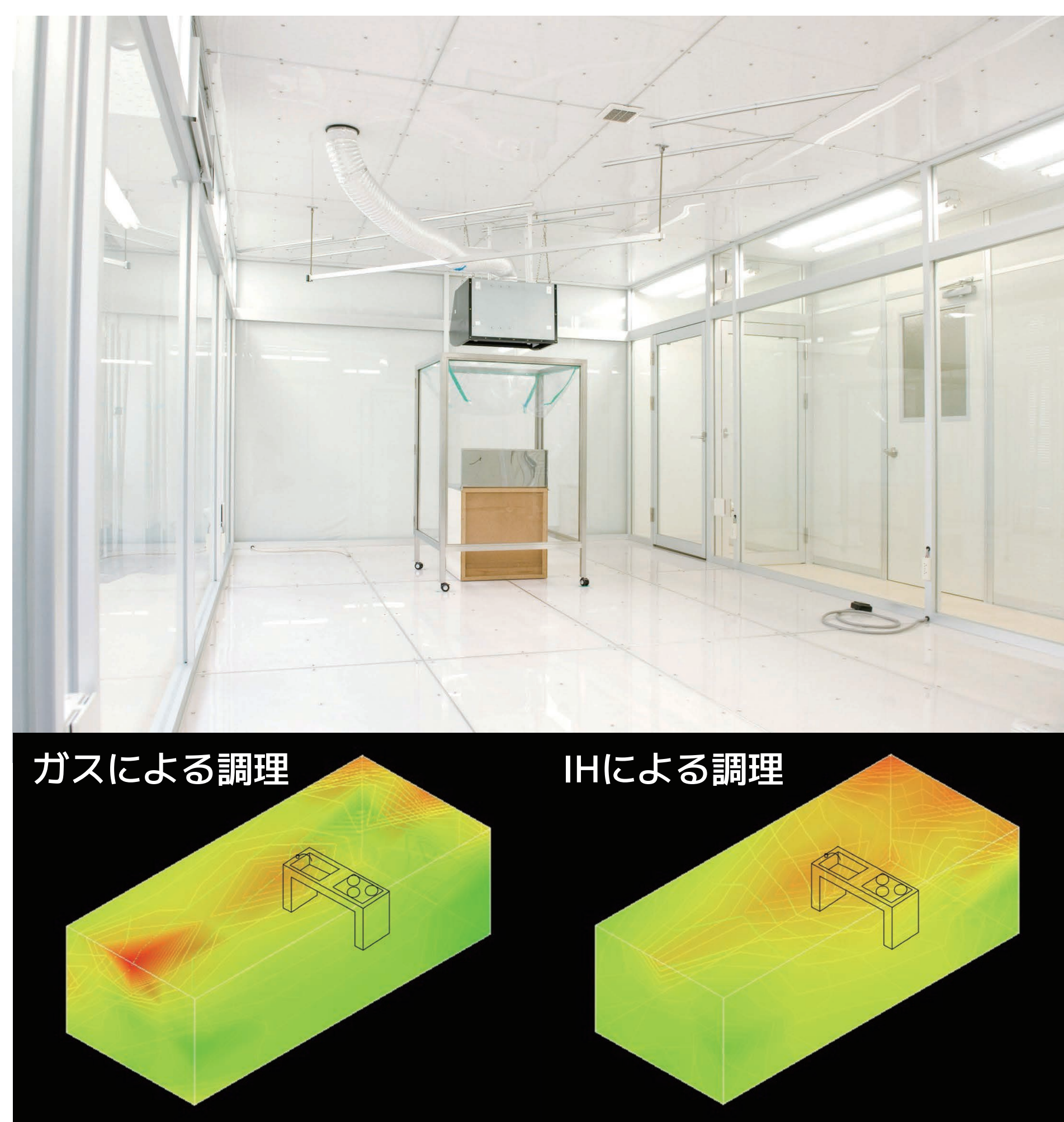
例えば、医療・福祉施設でのおむつ交換時のにおいについて、間仕切り用カーテンや脱臭機の設置条件を変更して測定した結果、条件により室内に拡がるにおいの濃度に最大24倍の差が生じることを明らかにしました。また、住宅のLDKでの調理臭の拡がりに関する研究では、ガスとIHの熱源の違いによる影響を明らかにし、住宅設計や排気方法の改善に繋がる結果を導き出しています。さらに、室内の臭気対策に必要な許容値や測定方法の提案も行っています。

毎年、大同大学において「におい研究交流会」を開催し、研究成果を広く発信するとともに、参加者との意見交換を通じて地域・社会への貢献を目指した活動を推進しています。

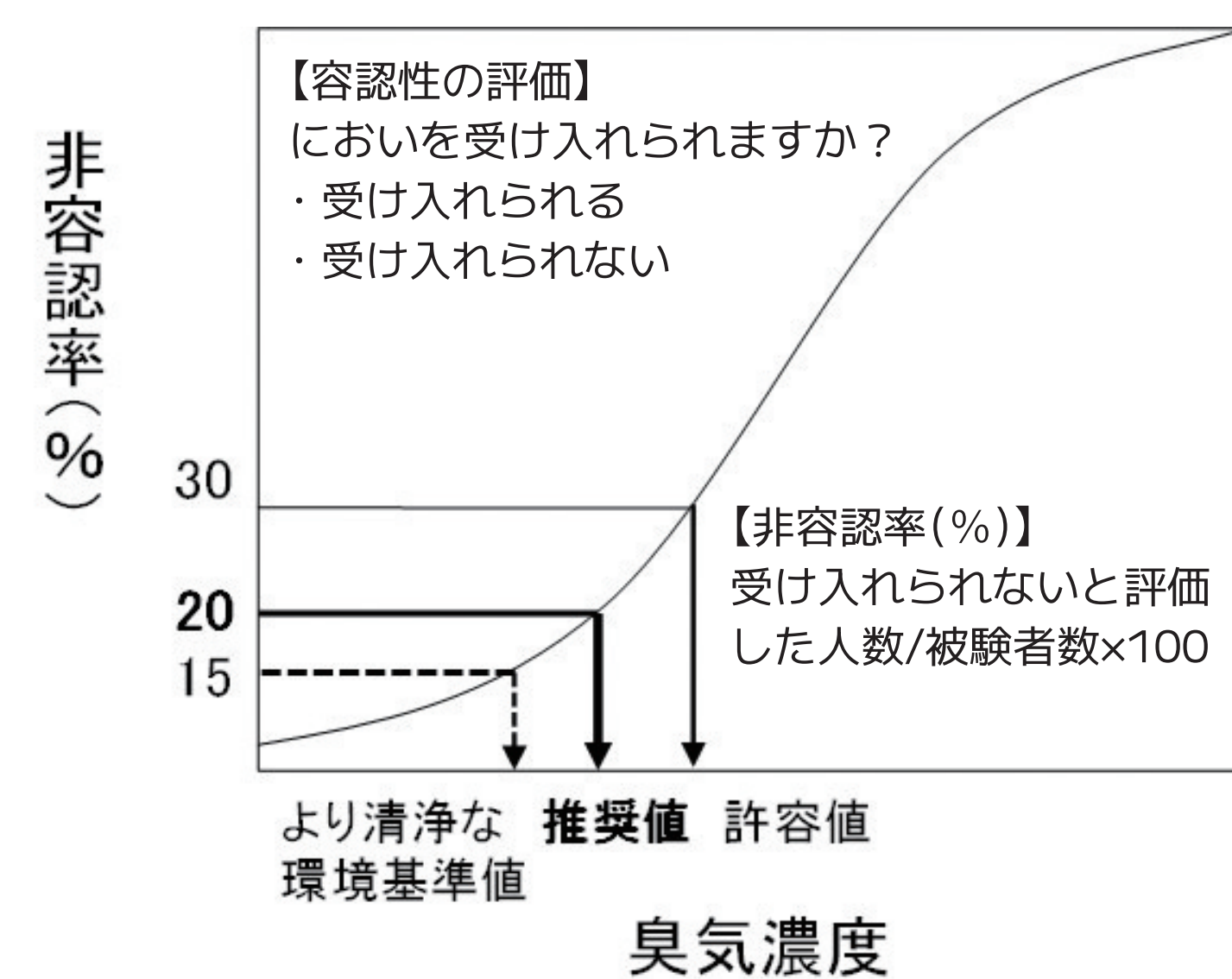
■課題・目標

生活環境のにおいは、個人の感じ方に大きな差があり、客観的に測定・評価することが難しいという課題があります。特に建築空間では、においが快適性に与える影響が大きいため、適切なにおい環境の整備が求められます。また、不適切な香りの使用による「香害（こうがい）」など、新たな社会問題も顕在化しています。当センターでは、精密な測定データに基づき、現実的かつ実効性のある解決策や、適切な香りの活用法を提案することを目指しています。今後、異分野との連携を強化し、工学・建築学・生活環境学・家政学などの多様な視点を取り入れた研究を進め、においに関する総合的な検討を行うことで、研究活動を一層発展させてまいります。

実物大空間を用いた調理臭の拡がり実験結果



臭気対策に必要な許容値の設定方法
臭気濃度と非容認率の関係より求める



においの成分分析を行う分析室と分析の様子



香料が並ぶ調香台と調香の様子

